

機縁

き えん

「機縁」で検索をする
と、データを集める方法の
一つとして「機縁法」があ
る。反対は「あたり前」
の反対は「あたり前」
若手

ることを知りました。機縁法とは、あるデータを集めたいときに、対象者を選ばず、知人などを通して条件に合う人を絞っていきやり方です。データの信頼性がより高くなるそうです。

この時の機縁は「きっかけ」という意味で用いられます。広辞苑で引くと「きっかけ」は二番目に出てくる意味です。

①仏の教えを受ける衆生の能力(機)と、衆生と仏との関係性(縁)をいう。②きっかけ
私の所で、仏がはたらいていると感ずる事、仏が死に体ではなく、活動体であると感じることを「機縁」というのです。

名作映画で例えるならば、『エデンの東』で、ジェームス・ディーン扮するキヤルが、最後に親の愛に気づくことに似ています。「機縁」が熟したのです。



今、南無阿弥陀仏と称える私の声の中に、親様がはたらいていると感ずることを「機縁」というのです。

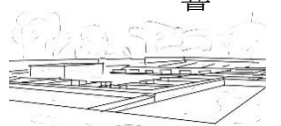
こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

祇園

ぎ おん

祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり・・・
祇園と聞くと何が浮かびますか。



か。平家物語でしょうか。それとも京都の繁華街でしょうか。

精舎とは、お釈迦様出家修行者が、集う場所のこと입니다。何か所もあり、祇園精舎竹林精舎が有名です。

真宗でよく勤める阿弥陀経は、祇園精舎で説かれます。如是我聞 一時佛 在舍衛國 祇樹給孤獨園

(私はこのように聞きました。あるときお釈迦様が 舍衛國の祇園精舎で・・・)

と、冒頭に説かれます。祇園の正式名称は祇樹給孤獨園。

昔々、給孤獨という長者がいました。長者の名の由来は貧しく孤独な人々に食を給じていたからです。福祉に力を入れていた長者が、お釈迦様の教えを聞く精舎を作りたいと土地探

しをします。求めた土地が舍衛國の王子祇多太子の土地だったので。交渉に行くと、「金貨で埋め尽くした分だけ土地を譲ろう」と無理難題をかけられます。長者が財産を使い果た

して金貨を敷き詰めようとする姿に心を打たれた太子は、土地を譲り、二人の名が記される祇樹給孤獨園が寄

進されるのです。

